

まちづくり交付金 事後評価シート
長沼地区

平成20年12月

静岡県静岡市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	静岡県		市町村名	静岡市		地区名	長沼地区			面積	62ha				
交付期間	平成16年度～平成20年度		事後評価実施時期	平成20年度		交付対象事業費	796	国費率	0.4						
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		基幹事業	道路整備事業(市道柚木栗原旧東海道線、駅間連絡道路、市道長沼11号線、東静岡南北幹線延伸道路)、公園整備事業(谷津山自然公園)、地域生活基盤施設(情報板設置)											
			提案事業	なし											
	当初計画から削除した事業		基幹事業	事業名		削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響						
			提案事業	なし											
	新たに追加した事業		基幹事業	道路整備事業(市道沓谷長沼線)		関連事業より編入			影響なし						
			提案事業	なし											
交付期間の変更		当初	平成16年度～平成20年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響										
		変更	なし												
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期			
	指標1	交通バリアフリー基本構想における重点整備区域内の歩行空間整備率	%	29.9	基準年度	H16	44.0	目標年度	H20	モニタリング	評価値	○	あり	当初の予定通りに事業が進行して、歩行空間が整備され、歩行者の安全な通行ができるようになった。	平成21年5月
										32.0	44.1		なし		
	指標2	交通バリアフリー基本構想における特定経路の歩道整備率	%	0	基準年度	H16	16.8	目標年度	H20	モニタリング	評価値	○	あり	当初の予定通りに事業が進行して、歩行空間が整備され、歩行者の安全な通行ができるようになった。	平成21年5月
										7.0	16.8		なし		
	指標3	交流人口の増加(鉄道駅乗降客数)	人	12,700	基準年度	H16	15,900	目標年度	H20	モニタリング	評価値	△	あり	東静岡駅周辺の施設立地が遅れている。ただし、両駅とも乗降客数が年々増加していて、交流人口の増加が見受けられる。	平成22年1月
14,208										14,813	なし				
指標4												あり			
指標5												あり			
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期			
	その他の数値指標1	自宅から静鉄長沼駅まで歩道のみでアクセスできる範囲の人口	人	0	基準年度	H16	/	/	/	/	/	/	/	/	/
	その他の数値指標2	谷津山自然公園へのアクセスに対する満足度	%	19	基準年度	H20	/	/	/	/	/	/	/	/	/
モニタリング															
その他の数値指標3															
4)定性的な効果発現状況	<ul style="list-style-type: none"> ・地区内が整備されていく過程で、科学技術高校生徒による地元防災訓練への参加や地区内の自主的な清掃活動の実施、静鉄電車祭り等への地元商店会の参加等、学校や企業や地元住民が一体となったまちづくりへの連携が図られるようになった。 ・関連事業である新設高校が、文化教養の施設として、地域住民を対象に生涯学習講座を開講している。今後もカルチャーセンターとしての機能を拡充していく方針であり、高校生だけでなく地域住民の活動のフィールドとなり始めている。 ・柚木栗原旧東海道線道路整備により、特にお年寄りが、以前よりも安心して外出できるようになったと地区住民から評価が得られた。 ・沓谷長沼線道路整備により踏み切り改良が実施され、静鉄長沼駅から敷地の入り口まで、歩道を通して安心して通勤や通学ができると近隣企業や科学技術高校関係者から評価が得られた。 ・事後評価に際して、横断的な庁内検討体制が構築できたことにより、後発の地区における検討が円滑化した。 														
5)実施過程の評価			実施内容				実施状況				今後の対応方針等				
	モニタリング		交付期間中(4年目)におけるモニタリングの実施				都市再生整備計画に記載し、実施できた			●	今後に実施する事業でも中間年度に実施し、事業の見直しを行う。				
							都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した								
	住民参加プロセス		地元組織との連携を図った上での事業実施:高校新設に伴い地元組織が形成されており、高校説明会と同時に地元説明会を開催した。				都市再生整備計画に記載し、実施できた			●	今後も事業を進めるにあたり、地元組織と調整を図り、より良い形で事業が進捗するよう努めていく。				
都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した															
持続的なまちづくり体制の構築		・民間鉄道駅の移設事業が検討される中で、周辺商店との連携を図り、地元と行政が協働したまちづくりを展開する。 ・市街地に残された貴重な自然環境や歴史風土を後世に残すため、地元市民による自然の保全や里山としての活用を検討する。				都市再生整備計画に記載し、実施できた			●	地元で活動している、谷津山再生協議会の関係団体、商店会、新設の高校生との連携を取って、まちづくりの機運の醸成を図る。					
						都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した									
						都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった									

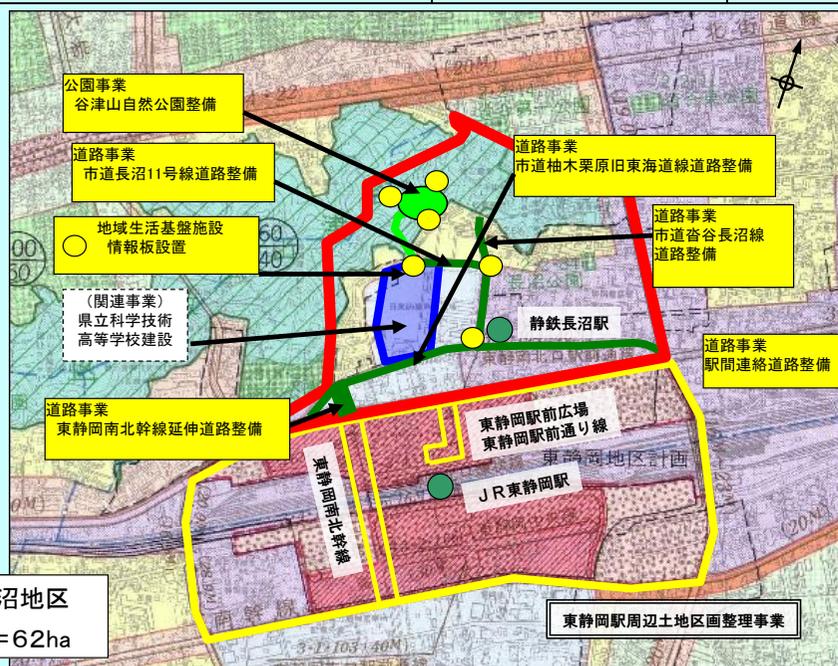
様式2-2 地区の概要

長沼地区(静岡県静岡市) まちづくり交付金の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値
○地域の拠点施設の導入に伴う周辺環境の整備改善と地域の風土を保全し、自然と一体感を持てるようなまちづくりを推進する。 ・当地区は、平成20年度に開校予定としている県立総合科学技術高等学校(生徒数1,000人予定)建設に伴い、学生等区内交流人口が増加することが想定されている地区である。よって、近隣駅からのアクセスルート及び周辺道路の歩行者空間の整備を行い、地元住民や通学者を安全に誘導できる交通網の改善を図ることにより、安全で快適な地域環境を整える。 ・隣接して事業施行中である東静岡駅周辺地区新都市拠点整備事業との連携を図り、国道を挟む鉄道駅間の交通施設の整備を行うことにより、通勤、通学者等の利便性の向上を図る。 ・地区の緑化資源であり、風致公園として位置付けている谷津山自然公園の整備と道標整備等を行うことにより、自然と触れ合いやすい生活環境を整える。	交通バリアフリー構想における重点整備区域内の歩行空間整備率	29.9	H16 44.0	H20 44.1
	交通バリアフリー構想における特定経路の歩道整備率	0	H16 16.8	H20 16.8
	交流人口の増加(鉄道駅乗降客数)	12,700	H16 15,900	H20 14,813
	自宅から静鉄長沼駅まで歩道のみでアクセスできる範囲の人口	0	H16 84	H20 84
	谷津山自然公園へのアクセスに対する満足度	19	H20 29	H21 29



県立科学技術高等学校



沓谷長沼線



榎木栗原旧東海道線



駅間連絡道路整備



凡例	
	基幹事業
	関連事業

まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> 市道榎木栗原旧東海道線、市道沓谷長沼線の整備により、通勤・通学等に係る歩行者の安全性や快適性が格段に向上した。 市道榎木栗原旧東海道線の車道に左折レーンが設置されたことにより、自動車の渋滞が緩和され、周辺環境が改善された。 谷津山自然公園や散策路等の案内板の整備により、公園施設の有効活用に向けての環境整備が図られた。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> JR東静岡駅と静鉄長沼駅周辺の歩行者ネットワークの更なる向上 今後開発が進む東静岡駅周辺土地区画整理事業と連携して、人の流れを長沼地区まで呼び込み、回遊性の向上を図る。 地域住民の生活と谷津山自然公園が一体となったまちづくり 地域住民が谷津山自然公園の活用を通じて、自然と一体感を持てるようなまちづくりを推進する。 地元(住民や高校生・企業等)主導のまちづくり 地元の様々な主体が連携して、自然環境や歴史的風土を活用した土地利用を検討して、自然観察や体験学習ができるような場所を創出する。 駅間の連絡に寄与する路線の実現 地区の南北からの交流促進のための道路整備を進めて、自動車、自転車、歩行者の回遊性の向上を図る。 歩行者の安全確保 抜け道として利用されがちな現状の地区内道路について、歴史的資源の活用を図り、地区内住民が安心して出かけられる道路としての、歩車共存の可能性を探る。